

公園づくりから考えるまちづくり

春日井市松河戸地区での取り組みから

櫻井 高志

スペースシアでは、ワークショップによる公園づくりに過去いくつか携わってきたが、昨年度からは新たに、春日井市内の西南部で現在土地画整理事業が進行中の松河戸（まつかわど）地区において、住民参加による公園づくりを手伝わせてもらうことになった。そこでの取り組みを紹介する。

松河戸地区の概要

松河戸地区は、JR中央本線勝川駅から南に歩いて十五分くらいのところにある。南側を名古屋市の市境をなす庄内川が流れ、北側には名古屋環状二号線が通っている。

この松河戸地区では、地区のほぼ全域、面積にして約六十六ヘクタールにおいて市施行で土地画整理事業が平成四年からはじまっている。現在の進捗具合は七十〜八十%といったところだが、住居地域が中心の用途で庭付き一戸建ての家が建ち並び、ゆったりとした市街地が形成されつつある。その中で公園もあわせて整備されることになっており、街区公園が五ヶ所、拡大リニューアルする既存の近隣公園が一ヶ所、ほかに地区内の公園を結ぶ緑道や緑地帯もつくられることになっている。

ちなみにリニューアルされる近隣公園とは、道風公園と言って、その隣には春日井市が「書のまち」とテーマを掲げる所以になった、平安生まれの書道家、「三蹟」にも数えられる「小野道風」生誕地伝説があり、市にとっても、地区にとっても大変に重要な由緒あるところなのである。（ここで豆知識をひとつ、小野道風は花札の絵柄、「柳に小野道風」にもなっているの、なじみの深い人もいることでしょう。）

取り組みのねらい

さて、住民参加による公園づくりは、テーマが身近で、かつ具体的であるため、将来ビジョンなどの計画づくりよりも、議論がしやすい。また、その成果も形あるものとして実際に目に見えるという点で、愛着が湧きやすく、利用や主体的な維持管理につながったり、住民が協力してつくり上げることでコミュニティが活性化したりするなど、様々なメリットがある。

春日井市でも、そのような効果を期待して、平成十五年に市単独で街区公園を一ヶ所整備した後、平成十七年度、昨年度からスペースシアが関わって、地域住民を巻き込んだワークショップ形式による公園づくりをスタートさせた。

昨年度の段下公園づくり

昨年度は、段下（だんした）公園という街区公園一ヶ所を整備するというところで、六月から八月にかけて、三回のワークショップを開催して基本構想をまとめ、その後、実施設計を経て、三月末には公園が完成した。ワークショップが終わって、約半年後には公園ができあがるというハイスピードな展開だった。

段下公園づくりの全体プログラムとしては、一般的なので簡単に紹介する。一回目は、地区内にすでにできあがっている公園を実際に見て、それを比較材料と

して、参加者一人ひとりがほしいと思っ
ている公園イメージを出し合い、コンセ
プトを検討した。二回目は、そのコンセ
プトをもとに、事務局から具体的な整備
案を複数提案したうえで、模型を使って、
住民案を作成した。三回目には、遊具や
植栽についての人気投票を行うとともに、
最終の整備案をとりまとめた。という流
れで、参加人数は、各回二十〜三十名で
あった。

さらに、公園完成間近に迫った三月に
は第四回ワークショップとして、住民自
身の手で園路に埋め込む絵タイルの絵柄
を製作してもらった。今回一番の目玉と
いえる取り組みである。内容は、三十セ
ンチメートル角大の枠内に二センチメー
トル角のカラータイルを並べて、自由に
絵柄をつくるというもので、親子での参
加を呼びかけたところ、百名を超える参
加を得、思い思いにカブトムシから消防
車、中には「ん？」というものもあつた
が、子どもらしい絵タイルが計四十八枚
完成した（公園への設置は業者に任せた）。
いろいろなお作品が仕上がって、園路散歩が
より一層楽しくなると思われる。絵タイ
ルづくりにこれだけの参加があつたのは
驚きで、手を動かしてものをつくること
への潜在的なニーズの高さが感じとれた
ものをつくるのが愛着を高める効果が
あるのなら、今後の公園整備については、
業者に任せっきりではなく、住民自らが
実際に汗をかくて工事に携わるのもいい



第4回のワークショップで行った絵タイルづくり。子ども達が熱心に作っています。

のかもしれない。

今年度の取り組み

今年度は、昨年度からの流れを引き継
いで、段下公園の利用をPRするイベン
トをこの十月に行った。地区内の親子に
呼びかけ、子どもから大人までが一緒に
楽しめるようなクイズや昔ながらの遊び
をいくつか用意した。この公園の特徴で
ある絵タイルを利用して指定した絵柄を
当てるクイズや昔懐かしいメンコ、ビー
玉、コマ回し、紙飛行機づくり、鬼ごっ
こなどである。五十名近い親子の参加が
あり、秋晴れの中、思いっきり遊び回っ
た。イベントを仕掛けることで、公園と
の関わりを近づけようとした取り組みで
ある。

その後、十一月からは、ワークショッ
プを二回開催することになった。今年度
具体的な公園整備の予定はないものの、
来年度以降さらに四ヶ所の公園が新たに
整備されていく予定になっているので、
地区全体からみた公園それぞれの特徴づ
けを検討しようというのが目的である。
つまり、地区内にできる複数の公園で機
能分擔させていこうという発想である。
これまで街区公園というと、ブランコ・
すべり台・砂場のお決まり三点セット付
き子どもの遊び場といったものが多く、
同じようなものばかりであった。確かに



10月のイベント、その名も「段下公園で遊ぼう！」。集まってくれた子ども達とその親御さん。

街区公園の主旨からすれば、それでもいいが、これからはそうではない。高齢者が減る、ペットが増えるなど、状況は様々に変わり、ニーズも遊び、散歩、スポーツ（ゲートボールからスケボーまで）、憩い、イベント、…と多様化しているのだ。地区公園、総合公園ならまだしも、街区公園レベルの小さなもの一つでそれに対応するのは到底無理なので、地区全体で機能分擔していこうという主旨だ。

八月に行った地区住民へのアンケート調査からも、「公園」に設置する施設や形態を変えて、違う利用の仕方ができるようにしたほうがよい、「特色をもたせたほうがよい」という意見が圧倒的に多く、公園ごとの特徴づけが求められているという結果となった。

街区公園の配置を見ると、その間の距離は大体二百〜三百メートルだ。しかもこの松河戸地区では全部ではないが、公園同士が緑道で結ばれているので、そこを歩くのも楽しみの一つになりうる。そんな緑道を通って、地区内を歩けば、例えば「この公園は遊具が多くて子どもが目いっぱい遊べるなあ」「ここは広場が広いから野球やゲートボール、イベントができるなあ」「ここは緑に、池もあって、自然を楽しめるなあ」「ここは歴史だなあ」…などと、いろいろなお公園に出会えるのだ。地区全体が一つのテーマパークのようになれば、松河戸地区の大きな魅力になるといえるのではないだろうか。

現在は、第一回のワークショップを終え、アイデアを抽出した段階である。今後、さらに回を重ね、方針をまとめていくことになるが、内容次第では、意外と面白い取り組みになりそうな予感がする。この松河戸地区では、住民参加はまだ二年目、始まったばかりである。維持管理やコミュニティなど内在する問題も少しずつわかり始めてきている。今後、魅力ある公園づくりを続けていく中で、その効果がまちづくり全体に波及して、素晴らしい地区になっていくことを期待したい。